

製品名: リン酸化カッパオピオイド受容体 (Ser369) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab00834

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 43 kDa; Observed MW: 43 kDa

抗原情報

遺伝子名	OPRK1
別名	OPRK1; OPRK; Kappa-type opioid receptor; K-OR-1; KOR-1
遺伝子 ID	4986
SwissProt ID	P41145
免疫原	抗血清は、マウス KOR-1 由来の Ser369 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

背景

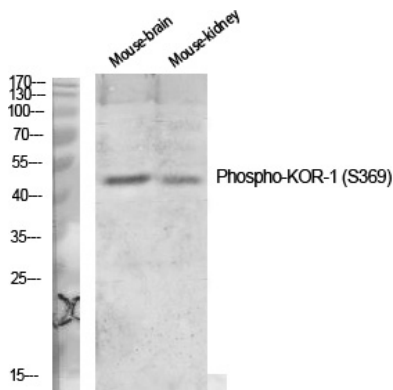
内因性オピオイドペプチドおよびモルヒネなどのオピエートは、膜結合型オピオイド受容体を介して薬理作用を伝達します。薬理学

的研究と分子クローニングにより、 μ 型、 δ 型、 κ 型の3種類のオピオイド受容体が同定され、それぞれ MOR-1、DOR-1、KOR-1とも呼ばれています。MOR-1は β エンドルフィン受容体、DOR-1はエンケファリン受容体、KOR-1はダイノルフィン受容体です。これら3種類のオピオイド受容体は高い相同性を有し、Gタンパク質共役受容体スーパーファミリーに属します。オピオイド受容体は、本能的な行動や感情など、脳の様々な機能を調節することが示されている。この調節には、カルシウムイオン電流を減少させ、カリウムイオン伝導性を増加させることによって神経伝達物質の放出を抑制することが関与していると考えられています。

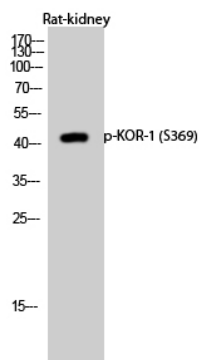
研究分野

神経科学

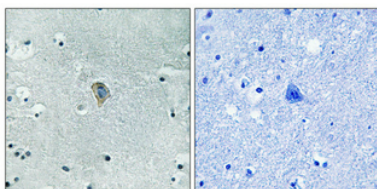
画像データ



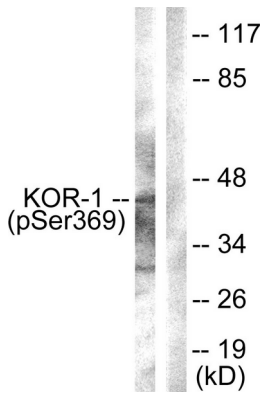
ホスホカッパオピオイド受容体 (Ser369) 抗体を使用した、さまざまな溶解物中のホスホカッパオピオイド受容体 (Ser369) のウエスタンブロット分析。



ホスホ KOR1 (S369) 抗体を用いたラット腎臓溶解物中のホスホカッパオピオイド受容体 (Ser369) のウエスタンブロット分析。



リン酸化 κ オピオイド受容体 (Ser369) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析。抗原賦活化には、高压高温 Tris-EDTA pH 8.0 を使用しました。右側はブロッキングペプチドを添加したサンプルです。



リン酸化カッパオピオイド受容体 (Ser369) 抗体を使用した NIH/3T3 溶解物中のリン酸化カッパオピオイド受容体 (Ser369) のウェスタン ブロット分析。右側のレーンはリン酸化ペプチドでブロックされています。